

天門山を望む（李白）

天門 中断して 楚江開く

碧水 東に流れて 北に向つて 廻る

兩岸の 青山 相對して 出ず

孤帆 一片 日辺より 来る

天門中断楚江開
碧水東流向北廻
兩岸青山相對出
孤帆一片日邊來

解説 李白が江南の地を放浪しているとき、舟中から天門山を望んで詠った作。

語釈 ※楚江Ⅱ長江をいう。※向北Ⅱ東流してきた長江は、ここで向きを北に変える。※日辺Ⅱ太陽のあたり。これは長安の縁語であり、都を懐かしむ情が暗示される。

通釈 天門山は、真ん中で二つに断ち切られ、その中を長江が流れている。まさおな水は東に流れていたが、ここで、北へ向かつて流れを変える。兩岸には青い山が向きあつて、突き出ているが、その間を一つの白帆が、遙かかなたの太陽の沈むあたりから流れてきた。